

長野県産業教育審議会「審議のまとめ（答申）」のアウトライン

■ 産業教育を取り巻く背景

①グローバル化・ボーダレス化

- 国境を越えた経済活動の展開
- グローバル企業が存在

②高度情報化

- 情報の蓄積・活用・伝達に重点
- ソフトウェア開発が主力

③サービス経済化・産業構造の変化

- 1次・2次・3次産業の枠組みを越えた経済活動
- 社会が求める人間像の変化、特定分野の知識・技術・技能の習得だけではなく新たな職業能力の育成が必要

④少子高齢化

- 一人ひとりの生産能力を上げ生産性を維持
- 高校では、一人ひとりの能力を最大限に高め引き出す教育

■ 高校生に今後望まれる能力

①基礎的な能力や態度・姿勢

- 高校生に共通の学力
- 心構え（「5S」、礼儀、マナー等）
- 姿勢（学び続ける）

②専門的能力

- 専門性の基礎・基本と汎用性
- 産業構造の枠を越えた多面的職業能力
 - ・体験に基づき深く考える力
 - ・勤労観や職業観
- 幅広く習得した知識・技術を基にした創造する力

■ 今後の望ましい産業教育

①共通する課題に対する産業教育

- 産業界のニーズ、県の人材育成方針の反映
- 「産業教育フェア」を参考にした情報発信
- 地域社会や産業界との連携・協働による体験的教育
 - ・コミュニケーション能力の育成
 - ・勤労観・職業観の育成
- 普通教科の基礎力の充実
- 実学主義を踏まえた基礎・基本
- 専門教科における汎用性の涵養と多面的職業能力の育成
- 専門教科における選択的な卓越性の伸長
- 地方創生の観点からの専門性の醸成
- ソフトウェアの活用・設計・開発
- 英語をはじめとした語学力
- イノベーション・アントレプレナーに関する教育の推進

②さらなる少子化に対する産業教育

- 産官学の連携やそのシステム化
 - ・デュアルシステム導入の推進
 - ・地域社会への貢献活動
 - ・地域活性化への参画
- 学校学科の再編統合
 - ・「基幹校」の考え方の見直し
 - ・大卒の学科の編成（小学科の再編統合）
 - ・大学科の連携と融合
- 総合学科や総合技術高校の設置
- 新学科の創設
- 定時制専門学科の普通科転換
- 高校卒業後の18歳以降の学びの場の検討の継続

③産業教育各分野の望ましいあり方

- 農林業
- 工業
- 商業
- 家庭
- 福祉
- 観光
- 専門学科以外の学科を有する高校

■ 今後の産業人材育成に向けて

①長野県として

- 県全体の産業振興の方向性を踏まえ、産業分野別に人材育成について検討していくことが必要

②教育委員会として

- 知事部局と連携を図り県全体のビジョンを踏まえながら、産業界と対話を継続し産業教育を充実